

グラウンドワークとは.....

市民・企業・行政がパートナーシップをとりながら、地域の環境改善などを行う活動です。あなたもぜひ活動にご参加ください。
(文中グラウンドワークをGWと表記することがあります。)



1月2日に三島梅花藻の里で、小松幸子理事長が撮影したヒマラヤザクラ。毎年12月~1月に掛けて開花する早咲きの桜。春間近。

GW三島応援団の地域住民から提供された、富士山と楽寿園の眺望写真2枚

第5回「プロジェクト未来遺産」(日本ユネスコ協会連盟)に源兵衛川が選定・登録

公益社団法人日本ユネスコ協会連盟では、「未来へ伝承すべき遺産」として、100年後の子供たちに地域の文化や自然遺産を残すために、「プロジェクト未来遺産」の登録を進めている。これまでの4年間に、全国39カ所のプロジェクトが登録されてきた。

今回、GW三島の「ドブ川化した川を、市民力を結集して蛍が乱舞する清流に再生・復活」プロジェクトが、全国10プロジェクトの1つに選定・登録された。これは、静岡県で初めてのことになる。



プロジェクト未来遺産に選定・登録された源兵衛川は、既に、多くの子供たちの心をとらえて離さない魅力的な場になっている。また、大人たちにとっても同様の宝で、観光客にとっては憩いの場である。

平成26甲午年・年頭のご挨拶

初春を寿ぎ、みなさまのご多幸とご健勝をお祈り申し上げます。
今年もグラウンドワーク三島は、先進的な活動を地道に展開していきます。昨年同様、ご理解とご支援、ご協力を、よろしくお願い申し上げます。

富士山の恵みが三島を包み込む。雪を頂く富士の姿に、感謝と幸せのひとときが流れる。三島市立公園楽寿園の樹木は、命をつなぐ入り組んだ根を、1万年も前の富士山からの溶岩に張り巡らせて潜り込み、湧水を吸い上げる。そして、四季を美しく伸びやかに彩り、私たちに語りかける。「また、新しい1年が始まるよ」と。

NPO法人グラウンドワーク三島理事長
小松 幸子

平成26年元旦のご挨拶

新年明けまして、おめでとうございます。本年も皆さまにとって良き年になりますことを、ご祈念申し上げます。

グラウンドワーク三島は、活動を始めて22年目になります。昨年は、組織体制を非営利部門と営利部門に分類し、非営利部門では、松毛川の森づくりや被災地支援などを行いました。特に、源兵衛川での環境教育事業は、日本ユネスコ協会連盟の「第5回プロジェクト未来遺産」に登録されました。

営利事業では、「NPOビジネス」の成功モデルを構築すべく、三島街中カフェ3店を経営し、年間延べ35万人もの来客数を誇り、停滞気味の商店街に元気の風を送ることができました。

本年は、昨年12月17日に設立したグラウンドワーク三島が出資する「株式会社パートナーシップトラスト」との連携による観光振興事業や「農業法人グラウンドワーク三島」の新規創業による農業生産販売事業への取り組みなど、NPOの創造的・革新的なビジネスモデル構築への挑戦を継続しています。

緒明實前理事長から受けた「人々の信頼のネットワークで物事を進めなさい」のお言葉を信念として、現場での地道な草の根の活動を大切に頑張っていきます。今後とも、皆さまのご支援・ご協力の程、よろしくお願い申し上げます。

グラウンドワーク三島専務理事 渡辺 豊博

小松幸子理事長に静岡県知事表彰



▲山田勝造 GW三島教育アドバイザーによる手作りの木製板

11月3日・文化の日、静岡県庁にて知事表彰の式典が行われ、小松幸子理事長は活動を長年支えてきてくれたご主人（小松英機さん）と出席した。上の左写真は、県庁前での川勝平太知事（写真中央）と小松夫妻。

前日の2日にはGW三島理事会が開催され、理事が祝福した。また後日、GW三島関係者でお祝いの会を開催した。

「多くの方が長きにわたって地道に、また、先進的に活動を進めてきているからこそこの受賞と感じています。これからも、できる範囲で精一杯関わっていきたくと思っています」と、小松理事長は受賞の感想を述べた。

GW三島の参加団体の三島ゆうすい会の塚田冷子会長（元GW三島副理事長）も知事表彰を受け、共に豊岡武士三島市長を表敬訪問して受賞の報告を行った。

GW三島 生物多様性アクション大賞実行委員会 「生物多様性アクション大賞2013」の審査委員賞を受賞

GW三島は「生物多様性アクション大賞 2013」の審査委員賞を受賞し、11月3日の授賞式には、渡辺豊博GW三島専務理事が出席し表彰状をいただいた。

対象となった活動内容は、「市民力・地域力の結集により、ふるさとの水辺と森の原生環境を再生・復活—市民・NPO・企業・行政とのパートナーシップによる生物多様性空間の再生—」。具体的には、三島市街の「街中」、松毛川地域の「里」、大場地域の「里山」の3エリアにおける水辺づくり、森づくり、人づくりを有機的に連携させた生態系コリドー「広域的・生物多様性圏域」の形成に向けた取り組みが高い評価を得て、審査委員賞を受賞することができた。



11月5日には、渡辺専務理事は豊岡武士三島市長を訪ね、受賞の報告（左写真）をした。

「全国学校・園庭ビオトープコンクール2013」支援部門において「元気賞」を受賞

公益財団法人日本生態系協会の「全国学校・園庭ビオトープコンクール2013」では、新たに「支援部門」が創設された。学校・園庭ビオトープの設置や育成、管理活用を、資金・資材・労力・ノウハウの提供や施策などにより、積極的に、継続的に支援する企業・団体・行政機関が審査対象となる。

GW三島は、支援モデルとなる優れた取り組みとして評価され、「学校・園庭ビオトープ元気賞」を受賞した。2月9日に表彰式が開催される。

また、実践部門では、GW三島が計画・造成・維持管理等で支援する県立三島南高等学校サイエンス部の「三南トープ」での取り組みが、日本生態系協会賞を受賞した。



農村計画学会の30周年記念顕彰を受賞

農村計画学会 2013年度秋期大会 学術研究発表会・秋期シンポジウム（鹿児島大会）



GW三島は、農村計画学会の30周年記念事業として、農村計画に関する取り組み事例の中でも特に顕著な功績があった地区に選定され、受賞にいたった。

農村計画学会は、豊かで美しい農村環境と、活力と魅力にあふれた農村社会の創出をめざす教育者、研究者、行政実務者、技術者および地域生活者の交流啓発の場として発足した。

表彰式は、11月30日、12月1日に鹿児島大学で開催された「農村計画学会2013年度秋期大会」の初日に行われた。全国の研究者・実践者が参加した秋季大会で、農村計画学会の山路永司会長より渡辺豊博GW三島専務理事へ表彰状が手渡された。顕彰タイトルは「英国発祥のグラウンドワーク活動の日本における実践と普及」。

受賞後、渡辺専務理事が感謝の言葉と共にGW三島の今後に向けた抱負を、NPOを運営する上での経済・経営面も踏まえて力強く語った。

台湾の行政関係者GW三島を視察



12月4日、台湾の行政関係者が一般財団法人日本国際協力センターの方々と、日本の環境トラスト制度について学ぶことを目的に、GW三島を視察した。

小松幸子GW三島理事長と渡辺豊博GW三島専務理事が対応。渡辺専務理事は台湾で講演したときの話も交えて説明。意見交換も活発に行われた。

その後、水辺の実践地案内は小松理事長。一行は、宮さんの川、源兵衛川や三島街中カフェに寄り、コミュニティ・ビジネスにも関心を示していた。



GW三島新事務所も、進化しつづけて



GW三島事務所では「竹あかり」と「源兵衛川希少種水族館」のライトアップを始めた。この竹あかりは、箱根西麓の放置竹林の間伐青竹を活用し、せせらぎシニア元気工房の匠によって、仕上げられた。

源兵衛川希少種水族館では、清流のシンボルであるホトケドジョウや源兵衛川の淡水魚を展示している。



上野公園の小松宮彰仁親王騎馬像

小松宮彰仁親王と楽寿園

【小松宮彰仁親王（こまつのみやあきひとしんのう）略歴】

小松宮彰仁親王は弘化3(1846)年伏見宮邦家親王の第8王子として生まれる。弘化5(1848)年仁和寺御室を継ぎ、仁孝天皇の猶子(ゆうし)となる。間もなく出家し、元治元(1864)年仁和寺門跡30世となったが、慶応3(1867)年王政復古の決定とともに明治天皇より復飾を命ぜられ、還俗(げんぞく)して嘉彰と称した。若くして俊才の誉れの高かった親王は翌慶応4(1868)年鳥羽・伏見の戦いでは、征夷大將軍(軍事総裁)となり、錦の御旗を掲げて御所を出発、幕府の西の拠点大阪城へ入城した。幕府軍は朝敵・賊軍とされ戦意を喪失し江戸へ退却した。

親王は明治3(1870)年～5(1872)年英国へ留学、帰国後はヨーロッパの君主の例にならって、皇族が軍務につくことを奨励し、率先垂範した。戊辰戦争では奥羽征討総督を、明治23(1890)年には陸軍大将、近衛師団長、参謀総長を歴任、日清戦争では征清大総督に任じられ、明治31(1898)年には元帥府に列せられた。

国際親善にも力を入れ、イギリス、フランス、ドイツ、ロシア等、ヨーロッパ各地を歴訪した。社会事業では、明治20(1887)年博愛社(現日本赤十字社)総裁に就任したほか、大日本水産会、大日本山林会等、各種団体の総裁も務め、皇族の公務の原型を築いた。

明治15(1882)年小松宮彰仁親王と改称。小松とは仁和寺の旧地名である。宮の揺籃の地、仁和寺に対する深い愛着が窺える。明治36(1903)年58歳で薨去(こうきょ)。一生を武人として捧げたとはいえ、武勇よりも優雅さを愛されたと言われる。幕末維新の变革がなかったならば、仁和寺の門跡として静かな一生を終わったかもしれない。

【小松宮親王三島別邸】

明治23(1890)年小松宮親王はかつて小浜山と呼ばれた場所に別邸を造営された。宮が初めてこの地に見えたのは富士で大演習があった時と言われている(年代不詳)。清水がこんこんと湧き、樹林の中に社や寺院が佇むこの地を宮は一目で気に入ったと言われる。小浜山周辺の景色が京都の風光を彷彿させ、仏縁に結ばれていたからであろうか。

現存する日記からは親王の別邸に対する愛着の深さや、三島市民との親交ぶりが窺われる。明治34(1901)年本町に伝染病が流行した時には仮病舎建設に多額の金子を下賜されたこと、別邸内では養蚕養糸が行われていたこと、明治35(1902)年田方郡立三島高等女学校(現静岡県立三島北高等学校)開校時には、養蚕室の一部を貸与したこと、別邸を開放し園遊会を開いたこと等も記されている。また、日本赤十字社の会合、軍事演習などの途次、更には夏季休暇や正月をこの地で過ごしており、三島別邸に対する一方ならぬ愛着の深さが感じとられる。小松宮は、皇室関係者、特に皇子たちと親しまれ、別邸はこうした関係者のよき保養地でもあったようである。

昭和27(1952)年別邸は緒明家から三島市に寄贈され「楽寿園」と名付けられた。小松宮別邸の「楽寿の間」に由来すると言われる。以来、市民に開放され、よき憩いの場所になってきた。周囲の自然林・植生を含む庭園は国の天然記念物および名勝に指定されている。伝統的な数寄屋造りの建築も含め、公園の維持管理と豊かな水たたえた小浜池の復活は三島市民の大いなる義務であり、宿願である。



湧水が復活したときの小浜池(2004年)



共に楽しく学んで

元行政相談委員・北上くらしのサロン元会長 庄司 峯子 さん
三島市広小路町在住

昭和5(1930)年沼津市千本に生まれる。三菱重工に勤務のご主人と結婚し、横浜に30年間在住。退職後三島市北上地区に移り住んだ。丁度その頃、女性の社会進出を目的に静岡県が行った「リーダー養成講座」を沼津市の静岡県東部総合庁舎で受けた。その講座修了生メンバーで、北上公民館を拠点にグループ活動を始めたが、運営はなかなかスムーズには進まなかった。

昭和60(1985)年、庄司さんを会長に新たに「北上くらしのサロン」を立ち上げた。メンバーは60名ほどで、月2回を活動日として北上公民館を拠点に活動を開始した。地域の主婦を対象に、日常生活に根差した様々なテーマに取り組んだ。当時三島市では



再現された三島宿の本陣料理

新興住宅地の開発が進められ、様々な地域からの人々が移り住み人口は倍増した。そこに住み始めた女性たちと、元々三島に暮らしていた女性たちと共に良い刺激を与えあい、一緒に学ぶことで学習成果が上がった。とかく新しい住民は地元の人々と疎遠になりがちと言われたが、このグループに参加することで幅広い仲間作りが出来た。

まず「北上の昔から今を学ぶ」というテーマで、北上地区の古老たちの話を聞き『北上郷の伝承集』をまとめた。更に環境問題も含む未来の街づくりへの

提案や純正食品への取り組みと普及活動など様々な活動をし、その都度冊子にまとめた。

そして、三島市郷土資料館館長(当時)の杉村斉さんとは親しくしていたので、その助言で東海道三島宿の本陣料理を再現し、「東海道四〇〇年祭」にも参加した。庄司さんを中心に取り組んだ18年間の多彩な活動は数えきれない。こうした活動は各方面から認められ、「地域文化活動奨励賞」をはじめ多くの賞を受賞した。平成13(2001)年、ご主人が体調を崩されたのを機に会長職を退任したが、現在も一会員であることに変わりない。退任については、冊子『ふれあいの中で』等に記述してあるという。

平成5(1993)年、三島市の行政相談委員に任命され、市民からの要望や苦情を行政に伝える役目を果たし、平成20(2008)年には総務大臣表彰を受けた。

更に平成3(1991)年「三島ゆうすい会」設立時に入会、翌年「グラウンドワーク三島実行委員会」にも参加。「GW三島インストラクター養成講座」や静岡県の「NPO講座」などの研修も受けている。GW三島の第1回英国GW視察研修ツアーにも参加し、有意義な体験をした。また、腰切不動尊例祭がGW三島の手で引き継がれているのは、行政相談の窓口での庄司さんの対応がきっかけだったそうだ。



月と星のトルコ国旗と一緒に

「三島は歴史のある町で、豊かな湧水に恵まれ、人情が厚く空気が温かい」と、横浜から戻ったときに感じたそうだ。健康のためには、歩くことが第一と考え、買い物などもわざわざ遠くまで歩いて行くよう心掛けていたとのこと。

趣味は書道と旅行で、書道は結婚後、横浜で先生について勉強した。海外旅行は異文化体験と気分転換が目的だ。三島市の姉妹都市や友好都市への訪問団には出来る限り参加し、個人的にもヨーロッパを中心に様々な国を旅している。平成25(2013)年10月にも、トルコの旅を満喫してきたばかりだった。冬には暖かい所、夏には涼しい所というのが原則で、海外旅行には、これからも元気な限り挑戦されるそうだ。誰もが感じる若さの秘訣は、一体どこにあるのだろうか。



ニュージーランドの姉妹都市
ニュープリマス市の方々と



地域文化活動奨励賞の受賞式



鳩山邦夫総務大臣からの表彰状



海外旅行でリラックスする庄司さん



アメリカの姉妹都市
パサディナ市の方々と



GW三島とともに

GW三島評議員 しみず すみこ 清水 純子さん

沼津市原に生まれる。子育てしながら、公文の教師を8年、昭和61(1986)年夫の転勤により、家族でアメリカのカリフォルニア州に7年間在住。その間にゴルフ仲間や現地の友人と交流しながらパッチワークに出会い、ずっと趣味として楽しんでいる。今は、健康のためにフィットネスクラブに通ったり、学生時代苦手だった歴史にも興味を持ち、お寺巡りを楽しんだりしている。

GW三島との出会いは、帰国後すぐ高校の同級生小松幸子さん(現理事長)に設立間もないGW三島を紹介されたのがきっかけだ。事務局員として現在のNPO法人GW三島の土台となる時代に関わった。三島から日本初のグラウンドワーク運動を発信し、全国からの視察者の対応、HPの作成や更新、ボランティアニュースの発行など多岐にわたり、活気に満ちた日々を過ごした。実践地の多くはその頃着手され、熱い汗を流し続けた。事務局を引退後も、鏡池ミニ公園と境川・清住緑地の維持管理をボランティアの仲間と続けている。建設当初、夏は雑草で覆われていた鏡池も、近所に住む岩田重理(しげみち)さんを中心に定期的に管理作業を続けることで維持しやすくなった。しかし、問題は、活動仲間が増えず高齢化で減少していくことであり、次世代へのバトンタッチがうまくいくような対策が必要だと思う。

鏡池は、GW三島が埋もれていた土砂を取り除いて整備したミニ公園である。最近その溶岩が樹木の形をそのまま表しているということで、地質学的に貴重な地形だと分かった。長年守ってきた公園に価値が加わりとてもうれしい。また、境川・清住緑地は、事務局員として計画、建設、勉強会、公共施設の住民による管理システムの構築に関わった。そして実際、三島市の清住緑地は地域住民による「境川・清住緑地愛護会」によって維持管理されている。新しいシステムに挑戦し結果を残しているGW三島の一員であることを誇りに思っている。

最近出会った好きな言葉は、「花も美しい、月も美しい、それに気づく心が美しい」〈円覚慈雲〉。



GW三島との協働で 中郷用水土地改良区は

中郷用水土地改良区理事長 さがわ よしたか 瀬川 芳孝さん

三島市安久に生まれ育つ。中郷農業協同組合(JA)に勤めた後、国会議員秘書、三島市議会議員、静岡県議会議員を歴任。現在は、中郷用水土地改良区理事長、三島市農業委員会会長、JA三島函南理事、保育園理事長を務めている。趣味は、農業。座右の銘は、「無信不立」。平成8(1996)年から中郷用水土地改良区役員としてGW三島に出会った。

中郷用水土地改良区の事業は、市の施策「ガーデンシティみしま」の事業内容と、用水を確保するという点で共通している。三島市立公園楽寿園の湧水池(小浜池・はやの瀬・中の瀬・せりの瀬)の一部は、中郷用水土地改良区の所有地である。この湧水が市内を流れる源兵衛川を経て、中郷温水池に入り、中郷地域の水田地帯(160ha)に稲作用水として利用されている。この用水の維持管理は、大変な事業である。



また、GW三島は、御園地区にある松毛川のすばらしい自然環境を後世に残すために、精力的に活動を展開している。そこでは、御園地区の町内・農家・土地所有者の同意を得て、現在、遊歩道(三島市側)を建設中である。安久地区、御園地区の水田基盤整備(24ha)も、これらに良い影響を与えていると思われる。

GW三島の取り組んでいる事業が、三島市民に一層の評価を得られるよう、我々中郷用水土地改良区も協働の精神で、GW三島の事業が益々発展していくよう頑張っていきたいと思う。そしてGW三島はグラウンドワーク事業を、三島市だけでなく全国に向けて発信し、一層発展することを期待している。

街中の相談室「洗心亭」— 河内屋で

高齢者よろず相談室「洗心亭」は、初期認知症の方の介護の相談を受け付けています。介護のコンシェルジュ(経験者)がお話を承り、悩みを共有することで適切なアドバイスができることと思います。

その他の相談内容は、身の周りのこと(家の改修、地震対策、庭木の手入れ)、ボランティア体験希望など、どんな相談事でも結構です。毎週金曜日の午前10時から午後3時まで、河内屋(本町14-13・みしまプラザホテルの裏の駐車場奥、河内邸)で無料相談を受け付けています。

特に認知症は、早期治療が大切です。地獄のような介護生活にならぬよう、早めにご相談ください。認知症サポーター養成講座も開催しています。認知症の方に、愛の手を差し伸べましょう。

なお、常設相談室は、ひろかわ工房(賀茂川神社南・キミサワ加茂川店の西側道路の向かい側)でも受け付けています。

お問い合わせは、GW三島(担当:加藤真理子) ☎055-983-0136 まで。

遊水匠の会・幼老生き生きねっと支援隊代表 小浜 修一郎



パッション No. 18



| 月 | 日 | 曜 | 事業名 | 内容 | 場所 | 人数 |
|----|----|---|---------------------|-------------------------------|------------------------|----------|
| 10 | 5 | 土 | 鎮守の森探検隊 | ⑦東洋一の湧水量がもたらす貴重な自然 | 柿田川 | 25 |
| 10 | 6 | 日 | 富士山を守れ！子どもワールド初ワーク | ⑤忍野八海探検 | 忍野村等 | 24 |
| 10 | 10 | 木 | 環境教育(源兵衛川) | 三島市初任者研修 | 源兵衛川流域 | 22 |
| 10 | 12 | 土 | 子どもを元気に富士山ワグプロジェクト | 石巻出前寺子屋・自然体験教室(～10/14) | 宮城県石巻市 | 75 |
| 10 | 19 | 土 | グリーンジムモニタープログラム① | 「里」松毛川河畔林整備、自然観察会 | 松毛川右岸(三島市御園) | 18 |
| 10 | 20 | 日 | 富士山湧水ワグインストラクター基礎講座 | 座学1:富士山の世界文化遺産の意義 | 三島商工会議所 | 24 |
| 10 | 20 | 日 | グリーンジムモニタープログラム① | 「里」援農、竹しがら作り、まとめ | 松毛川右岸(三島市御園) | 18 |
| 10 | 24 | 木 | ゆめワーク三島 | 中郷中学校2年生職場体験 | 三島市内 | 2 |
| 10 | 27 | 日 | 境川・清住緑地 | 稲刈り・稲架掛け | 境川・清住緑地 | 20 |
| 11 | 2 | 土 | 源兵衛川ふるさとの川づくり | 下流部生息環境再生ワグ「イザナジ」 | 源兵衛川第7ゾーン | 15 |
| 11 | 8 | 金 | 富士山湧水調査 | 北麓(忍野八海) | 忍野村 | 22 |
| 11 | 9 | 土 | グリーンジムモニタープログラム②等 | 「山」三島そば収穫・分別 | 三島市川原ヶ谷(元山中)等 | 30 |
| 11 | 9 | 土 | 富士山湧水ワグインストラクター基礎講座 | 座学2:富士山の生い立ちと三島 | Via701 | 35 |
| 11 | 10 | 日 | 境川・清住緑地 | 「街中」境川・清住緑地ワグ「イザナジ」 | 境川・清住緑地 | 15 |
| 11 | 10 | 日 | グリーンジムモニタープログラム② | 「街中」環境整備作業、「山」三島そば分別 | 三島市大場等 | 22 |
| 11 | 12 | 火 | 「山」援農活動 | ①三島そばの乾燥・分別作業 | 三島市大場 | 8 |
| 11 | 16 | 土 | 富士山を守れ！子どもワールド初ワーク | ⑥田貫湖探検～湿原や2次林の動物と植物～ | 富士宮市 | 18 |
| 11 | 17 | 日 | 鎮守の森探検隊 | ⑧五感を使って、森と友達になろう! | 伊豆市・天城遊々の森 | 18 |
| 11 | 19 | 火 | 松毛川千年の森づくり | 竹伐採・清掃(ファミリー様協働作業) | 松毛川左岸(沼津市大平) | 20 |
| 11 | 21 | 木 | ゆめワーク三島 | 北中学校2年生 職場体験 | 三島市内 | 2 |
| 11 | 21 | 木 | 環境教育(源兵衛川) | 北中学校1年生 校外学習 | 源兵衛川・楽寿園 | 91 |
| 11 | 22 | 金 | 富士山湧水調査 | 北麓調査 | 山中湖村・富士吉田市 | 18 |
| 11 | 23 | 土 | 街中スタディツアー | 三島お宝発見!ツアー | 三島市内 | 20 |
| 11 | 23 | 土 | グリーンジムモニタープログラム③ | 「山」竹林伐採、三島そば分別 | 三島市川原ヶ谷(元山中)等 | 21 |
| 11 | 23 | 土 | 富士山湧水ワグインストラクター基礎講座 | 座学3:「水の山・富士山」の恵み | Via701 | 31 |
| 11 | 24 | 日 | イオンチアーズクラブ | ペットボトル水車づくりと水車見学 | 宮さんの川 | 15 |
| 11 | 24 | 日 | グリーンジムモニタープログラム③ | 「山」竹あかりづくり(間伐材活用) | 悠遊工房ひろかわ | 21 |
| 11 | 27 | 水 | 環境教育 | 自然探求④ふるさとの自然を探る | 三島南高校 | 61 |
| 11 | 29 | 金 | 富士山湧水ワグインストラクター基礎講座 | 実学:湧水池見学と調査実習 | 静岡県・山梨県 | 23 |
| 11 | 30 | 土 | 街中スタディツアー | 三島街中お宝発見ツアー | 三島市内 | 20 |
| 12 | 6 | 金 | 富士山湧水調査 | 北麓調査 | 忍野村等 | 23 |
| 12 | 8 | 日 | グリーンジムモニタープログラム④ | 「街中」源兵衛川ふるさとの川づくり | 源兵衛川 | 17 |
| 12 | 8 | 日 | 源兵衛川基礎講座 | 座学・実学:源兵衛川の植生植物 | 源兵衛川、Via701 | 20 |
| 12 | 13 | 金 | 富士山湧水調査 | 北麓調査 | 山中湖・富士吉田市 | 19 |
| 12 | 14 | 土 | 境川・清住緑地 | 収穫祭、野鳥観察会 | 境川・清住緑地 | 100 |
| 12 | 15 | 日 | グリーンジムモニタープログラム⑤ | 「里」松毛川千年の森づくり(植樹) | 松毛川右岸(三島市御園) | 19 |
| 12 | 15 | 日 | グリーンジムモニタープログラム⑤ | 「街中」視察、「里」松毛川竹伐採等 | 三島市内、松毛川 | 19 |
| 12 | 22 | 日 | 富士山を守れ！子どもワールド初ワーク | ⑦富士五湖探検 | 山中湖、本栖湖など | 22 |
| 12 | 23 | 月 | 「三島農村カフェ」イベント | 「三島そば」そば打ち教室① | 三島農村カフェ | 18 |
| 12 | 26 | 木 | 「里山」援農活動 | 竹林伐採 | 三島市大場 | 6 |
| 12 | 29 | 日 | 「三島農村カフェ」イベント | 「三島そば」そば打ち教室② | 三島農村カフェ | 31 |
| 1 | 11 | 土 | グリーンジムモニタープログラム⑥ | 「里」松毛川竹伐採・チップ化 | 松毛川右岸(三島市御園) | 23 |
| 1 | 12 | 日 | グリーンジムモニタープログラム⑥ | 「里」松毛川竹しがら作り、植樹 | 松毛川右岸(三島市御園) | 23 |
| 1 | 12 | 日 | 源兵衛川基礎講座 | 座学:源兵衛川の生物多様性とは | Via701 | 22 |
| 1 | 13 | 月 | 都留文科大学富士山学講座 | 富士山の魅力と冬の原生林体験① | 山梨県内 | 22 |
| 1 | 18 | 土 | 都留文科大学富士山学講座 | 富士山の魅力と冬の原生林体験② | 山梨県内 | 19 |
| 1 | 18 | 土 | 富士山を守れ！子どもワールド初ワーク | ⑧原生林と里山探検 | 山梨県内 | 26 |
| 1 | 25 | 土 | 鎮守の森探検隊 | ⑨「ゴムボートを使って冬鳥の観察」 「まとめ発表会」 | 松毛川左岸(沼津市大平) Via701 | 25 25 |
| 1 | 28 | 火 | 腰切不動尊 | 1月例祭 | 腰切不動尊 | 15 |

| 月 | 日 | 団体名 | 人数 | 地域 |
|----|----|-------------------|----|----|
| 10 | 10 | 三島市新規採用職員研修 | 15 | 静岡 |
| 11 | 6 | 高根沢町議会 教育住民常任委員会 | 7 | 栃木 |
| 11 | 6 | 北九州市建設局河川部 | 2 | 福岡 |
| 11 | 12 | 甲斐市女性団体連絡会 | 30 | 山梨 |
| 11 | 12 | 埼玉県三郷市町会長等視察研修会 | 80 | 埼玉 |
| 11 | 17 | いたばしエコ活動推進協議会 | 6 | 東京 |
| 11 | 20 | 高知県土佐清水市議会 清友会 | 3 | 高知 |
| 11 | 22 | みなみがわふるさと会 | 19 | 埼玉 |
| 11 | 30 | 新野水のめぐみ公園管理組合 | 26 | 静岡 |
| 12 | 3 | 全国市街地再開発協会 | 4 | 東京 |
| 12 | 4 | 日本国際協力センター(台湾視察団) | 5 | 台湾 |
| 12 | 14 | 立教セカンドステージ大学 | 17 | 東京 |
| 12 | 14 | 韓国地方自治経営研究所(論山市) | 33 | 韓国 |
| 1 | 10 | 柏市公園緑政課 | 7 | 千葉 |
| 1 | 26 | 自由民主党掛川支部 | 50 | 静岡 |

〈定例作業〉

- ★三島梅花藻の里 21回
- ★鏡池ミニ公園 4回
- ★桜川 4回
- ★宮さんの川 毎日
- ★源兵衛川 34回
- ★沢地グローバルガーデン 4回

〈定例会議〉

- ★インストラクター会議 4回
- ★編集会議 16回

三島そば作り



初秋には、駿河湾と富士山を背景に三島そばの白い花が咲き、美しい景色が広がった。

11月9日に「そばづくり隊」と、「グリーンジムモニタープログラム」のモニターたちで、収穫、脱穀、分別作業を実施。三島市大場の納屋にて乾燥させ、合計約200kgを収穫。11月中には5回の分別作業を行った。

「三島そば」そば打ち教室開催



12月23日、「三島そば」の新粉を使ったそば打ち教室が、三島農村カフェで開催された。小学生や保護者、そばづくり隊、GW三島スタッフ等25人が参加。そばづくり隊長の久峯雄雄さんや肥後実哉さん、下郷幸さんの指導のもと、香りのよい二八そばが出来上がった。



12月29日、2回目が開催され30人が参加。安藤英彰さんに加え、そばづくり隊の4名の指導で、初体験の人でも4人前の手打ちそばを打つことが出来た。12月30日には、三島街中カフェ1号店で「年越し三島そば」を限定販売した。

「バイリンガル環境かるた」

11月30日に御前崎市から視察にいらっしゃった方々と、「みどり野ふれあいの園」の手入れの行き届いた芝生で「バイリンガル環境かるた」を体験。小松幸子理事長の提案で、読み手はGW三島事務局のスプリチャル修平ルイスさん。富士山も眺望でき、大いに楽しんでいただけた。

「NPOのエキスパート・ジャンボ渡辺を囲む会」



■10月29日夜、静岡市の専門学校ノアデザインカレッジにて、渡辺豊博GW三島専務理事・事務局長による勉強会と座談会を開催した。テーマは「社会の中で人間らしく生きる「知恵」と「人間力」とは」。現代社会に生きる若者を取り巻く社会環境について考え、参加者から「若者を育てていくヒントになった」という感想があった。■11月26日夜にも同所で開催。テーマは「21世紀に必要な人間力」。若者の人間力を磨く上で、「リーダーシップ力」「クリエイティブな力」「人間的感情や優しさ、思いやりの力」が重要であると語った。

ファミリーマート伊豆営業所様による松毛川清掃活動

11月19日、昨年に続き今年も「環境美化活動@松毛川」をテーマに、総勢20人のボランティアたちが長伏公園の駐車場に集合。ゴミ袋を手にゴミを拾いながら松毛川に到着。野鳥の観察会をする森の草刈りや竹の伐採をした。以前植樹した苗木にも光が当たるようになり、農道からも川の水面が見えるようになった。今後も活動の継続が約束されている。



中学生の職場体験



10月24、25日、三島市立中郷中学校の2年生が職場体験。「三島梅花藻の里」の定例作業や市内元山中のそば畑で雑草の除去作業に参加。「三島街中カフェ」での運営体験もした。



「石巻出前寺子屋・自然体験教室」開校



10月12日～14日、「地元の自然の魅力」を地元の子どもたちに体感してもらう」ことを目的に、石巻市牡鹿半島蛤浜にて「石巻出前寺子屋・自然体験教室」を開校した。

伊豆市の「伊豆自然塾」の関係者、三島、東京近郊の大学生が参加。石巻市の「蛤浜再生プロジェクト」のみなさんとの連携のもと、蛤浜に地元の子どもたち35人を招き、出前寺子屋や自然体験教室を開校。キャンプやバーベキューなども楽しんだ。

震災後の海にこれまで触れることがなかった石巻の子どもたちの、海との新たな第一歩を見届けることができた。

「ゲストハウスみらい」石巻で11月中旬、本格オープン！

石巻市の「ゲストハウスみらい」は、平成24年度内閣府「復興支援型地域社会雇用創造事業」の一環として実施された「GW三島インキュベーション事業」に参加した女性が起業。起業したのは震災前まで石巻の水産加工会社を運営していた女性で、準備も進み本格的にオープンとなった。

平成26年の春より、女川の漁師さんと提携した漁業体験プランも予定されている。



石巻市蛤浜で起業研修を開催



11月11、12日、蛤浜再生プロジェクトの若手スタッフ10人を対象に、起業研修を実施した。講師は、前川卓三社会起業大学副学長。

蛤浜の現地視察、現状報告、石巻で起業した女性企業家との意見交換などをもとに、蛤浜の再生・利活用に向けたビジネスモデルの共有や今後の方向性などを確認しあった。

グリーンジム2013モニタープログラム



第1回 モニタープログラム

10月19、20日に実施。大学生や社会人など18人が参加。グリーンジムとは、三島市内の「山」（箱根西麓）、「里」（三島市御園）、「里山」（三島市大場）、「街中」（源兵衛川流域）での援農活動や環境改善活動をとおして、ボランティアの健康増進やセラピー効果を同時に進める取り組みのことをいう。

1日目：松毛川竹林の伐採作業。約2時間の作業でうっそうとしていた河畔がきれいになった。

2日目：雨天のため畑での農作業は中止。代わりに小林農園の小林さんと大川さんのお話。その後、昨日切った竹を縛って「しがら」を作る作業を行った。午後はGW三島の事務所にて最後のまとめ。GW三島の活動や事務局員の仕事内容などについて話を聞いた。

第2回 モニタープログラム

11月9、10日に実施。9日は、三島そばの収穫と脱穀、分別を行った。10日は、境川・清住緑地の草刈りと整備作業のワンデイチャレンジを体験した。

第3回 モニタープログラム

11月23、24日に実施。

1日目：午前、箱根西麓・元山中の竹林伐採をし、午後は三島そばの分別作業と、とうみがけを行った。

2日目：せせらぎシニア元気工房にて、間伐竹材を利用した竹製品づくりを行った。

「松毛川千年の森づくり」

12月14、15日、「グリーンジムモニタープログラム」の一環で、「松毛川千年の森づくり」が実施され、立教セカンドステージ大学の学生など2日間で延べ20人が参加。

講師は山竹種苗園の山田健次さん。植樹作業について説明を受けた後、エノキ、ムクノキ、ケヤキなど、その土地に自然に生える潜在自然植生種15種類の苗木計200本を植樹した。竹林伐採も行った。両日、同様の作業を行った結果、竹林に埋もれていた樹木が顔を出し、松毛川の河畔林が息を吹き返した。



韓国の行政関係者、GW三島の実践地を視察

12月14日、韓国地方自治経営研究所の一行33人がバスで来訪。車中では小松幸子理事長がGW三島の概要を説明し、実践地では渡辺豊博専務理事が丁寧に説明した。



「みどり野ふれあいの園」では快晴の富士山が姿を見せた。以前韓国の方々が植えたハナミズキも見て、森昭夫さんの説明に聞き入った。

「三島梅花藻の里」では、可憐に咲いているミシマバイカモの花が活動を象徴しているかのように、一行は感心しきりだった。



三島市内の写真集



撮影者：みしま こまち
 撮影場所：中郷温水池
 ひとこと：栃木県から視察にみえた方々のご案内後、福岡県からの視察者を中郷温水池にご案内。
 愛くるしい目をした野鳥が、たくさん近づいてきました。源兵衛川の観察ブックには、「冬にシベリアから中郷温水池に飛来するオナガガモ（カモ科）」とあります。

【投稿方法】撮影者の氏名、住所、電話、撮影場所、撮影年月日にひとこと添え、Eメールに添付してGW三島事務局までお寄せください。
 Eメール：info@gwmishima.jp

ご寄付をありがとうございます！

「子どもを元気に富士山プロジェクト」ほかGW三島の活動のために
 ＊この祭り、乱れ咲き出店者様 28,500 円
 ＊安永商事様、イベント 66,842 円
 ＊サキナビューティラウンジ 名古屋様 24,000 円
 ＊その他5件 16,879 円
合計 136,221 円

世界の宝物・富士山を守れ！子どもフィールドネットワーク活動

第6回 田貫湖探検

11月16日、加須屋真常葉大学非常勤講師を迎え、田貫湖の北岸に広がる小田貫（こだぬき）湿原を散策。雪化粧した富士山の麓標高700mにある当地は自然林に囲まれ、数多くの動植物が生息している。
 この日は、ヒルムシロ、ヨシなどの湿生植物や、バッタ、ヒメアカネなどの昆虫を観察。好天に恵まれ、快適な観察会となった。



第7回 富士五湖探検

▼山中湖からの富士山

山中湖交流プラザ「きらら」にて、フジマリモを観察する一行！



本栖湖からの富士山

12月22日、富士五湖の誕生とその周辺の動植物の生態について学んだ。富士山麓の山梨県側に点在する富士五湖は、富士山の噴火による堰止湖で、今回は、東に位置する山中湖と西に位置する本栖湖の自然探検をした。富士山エコネットインストラクターの田村和幸さんの案内で、湖岸線を歩きながら山中湖について学んだ。湖岸が火山灰の砂州で形成されているのが特徴。雪原に残された動物の足跡や富士山の側火山が一列に並んでいる様子なども観察した。
 その後、本栖湖に向かった。貞観（じょうがん）6（864）年の貞観噴火により、元は1つだった湖が、西湖、精進湖、本栖湖に分断され、溶岩流の上には、長い年月をかけ青木ヶ原樹海が形成された。本栖湖から眺める美しい富士山は千円札の裏側にも使われている。

（株）フジコー様より寄付金

11月25日、谷口拓彦（株）フジコー営業部裾野店主任様から寄付金の目録をいただいた。
 渡辺豊博専務理事は感謝状を贈呈し、貴重な河畔林である「松毛川・千年の森づくり活動」に活用したいと、感謝の言葉を伝えた。



「鎮守の森探検隊」

★第7回 10月5日
 「東洋一の湧水がもたらす貴重な自然」
 清水町の柿田川湧水公園の散策道で観察会が行われた。樹木、草花、昆虫、水辺の生き物などを観察。展望台から湧き間も見学した。



★第8回 11月17日
 「五感を使って、森と友達になろう」
 伊豆市の天城遊々の森にて、「伊豆子どもミュージアム」の協力を得て、子供たちはツリークライミングとネイチャーゲームに挑戦。楽しい体験ができた。



三島街中カフェ通信

1号店「三島街中カフェ」

地元野菜やそれらを使った美味しい手作り惣菜が大人気。パン、菓子類など品数も急増中。

2号店「ZEROGO-ME」

街のにぎわい再生の一環で、楽しんでもらえるようにとイルミネーションを設置。是非ご来店を！



3号店「せせらぎ源兵衛」

新メニューとしてオリジナルのスティック状の「みしまコロッケ」と、田舎風の辛味のきいた「三島味噌おでん」を販売中！まずは、味わってみて！

祝・由香さん、ご結婚おめでとう！



▲純白のドレスから、お色直しでピンクのドレスに着替えた幸せいっぱい由香さんを囲んで

10月27日、「三島街中カフェ」で働く渡辺由香さんの結婚披露宴に職場の関係者も出席し、小松幸子理事長が祝辞を述べた。また、職場の上司の勝亦洋子さんが「指輪」を熱唱し祝福した。鈴木姓となった由香さん、幾久しくお幸せに！

グラウンドワーク三島編集室 ボランティアニュース 52号の編集ほか
 加藤 美穂 河田 恵美子 岸野 和子 城所 俎帝 小松 幸子 斎藤 彩子 本田 博子
 前田 充子 水野 幾子 村澤 圭 山崎 多紀子 山田 勝造 (編集室メンバーは50音順)
 GW三島事務局担当：村上 茂之